

○昭和三十八年総会は種々の都合によりおかれて、去る九月八日(日)大分市林業会館に於いて行なわれた。会する者約六十名、県下各地より集まった。午前中研究発表、午後総会、引続き田北学氏の公開講演が行なわれた。研究発表は前号に発表された方々を含めて次の如き人々であつた。

大野川通船について 土生 米作

賀来神社大名行列について 二宮 好雄

湯立 神楽 染矢多喜雄

六郷山後山金剛寺の位置

—実態調査の報告— 中野 幡能

昼食後総会に移り出田節雄氏が座長に選ば

れ渡辺委員長の仕事報告会計報告次に監査

報告があり、引続き中尾事務局長から本年

度事業として、毎日新聞社発行「大分県の

歴史と文化」の原文のままを発刊すること

について、県費補助とその収支予算計画を

発表し、討議の結果、県費補助の見通の後

に着手するという決議になつた。

ついで待望の田北学氏の「大友研究について」を五つの項目にわけ、古文書による実証的研究について実例をあげ、極めて豊富な氏の研究についての講演があり、一同多大の感銘をうけた。(尚同氏は十一月西日本新聞文化賞をうけた、斯界の為に御同慶の至りである。併せて心から喜びを申し上げます)

○大分県史料刊行会は大分県史料補遺として「宇佐八幡到津、宮成文書」「諸家文書補遺」を印刷中であります。何れも新しい史料であるが、八幡宮文書の方には通称「宇佐大鏡」を収録しています。御希望の方は大分市中島二条大分県立教育研究所内大分県史料刊行会宛申込み下さい。

なお刊行の遅れている「豊日史学(宇佐文化)一四四号」も発刊されました。

編集後記

○本号には外山、富来、染矢、匹田等の諸氏から玉稿を頂き、発展する本「地方史」の為に精彩をそえることのできた事は喜びにたえません、殊に外山幹夫氏は県外から御

投稿大友研究の新分野を御発表頂きました。今後つづいて御投稿を期待してやみません。尚都合により次号になつた原稿もありませんが、御諒承願います。

○本号編集については年末年始を控えて予定よりおくれましたうえに、年度末にかつたために諸種の事情で富来隆委員始め皆様に多大の迷惑をかけた。深くおわび申します。(中野記)

昭和三十八年十二月二十日印刷
昭和三十八年十二月三十一日発行

会費 年五〇〇円
本号に限り一五〇円

編集兼 渡 澄 夫
発行人代表

印刷人 高 井 久 雄

大分市上野

印刷所 三恵印刷株式会社

電話②三七七五・五六六五番

大分市駄ノ原 大分大学

学芸学部国史研究室内

発行所 大分県地方史研究会

(振替下関五二九四番)